



TITLE:

價格構成に於ける商業の作用(下)

AUTHOR(S):

堀, 新一

CITATION:

堀, 新一. 價格構成に於ける商業の作用(下). 經濟論叢 1936, 42(5): 935-949

ISSUE DATE:

1936-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130769>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號 五 第 卷二十四第

行發日一月五年一十和昭

論 叢

醫と課税

法學博士 神戸正雄

ナイト利子論の吟味

文學博士 高田保馬

經濟學史の基本問題

經濟學博士 石川興二

時 論

最近の貿易構成の變化について

經濟學博士 谷口吉彦

最近に於ける小作爭議の動向と小作立法

經濟學博士 八木芳之助

研 究

社會保險の本質とその效果

經濟學士 中川與之助

パレトの生産均衡論

經濟學士 青山秀夫

價格構成に於ける商業の作用

經濟學士 堀 新一

說 苑

來住の大阪人口構成

經濟學士 青盛和雄

附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題

價格構成に於ける商業の作用 (下)

堀 新一

二、市場價格の構成と商業

生産と消費の時間的場所的分離は商品生産の迂回化と相待つて需要供給の均衡化を困難ならしむ。即ち資本主義の或發展段階に於ては $W \rightarrow Q \rightarrow W'$ の過程に於ける W, W' 間に於て、時間的場所的量的質的要求の間に矛盾が生ずる事になるが、この事は必然市場價格の正常價格よりの隔離を擴大する事となる。然らば商業の介入はこの間に處して如何なる作用を及ぼすかが本論の問題である。商業の市場價格に及ぼす作用も商品生産が普及し既に資本制生産が或程度の發展を見るや學者の注目を引いた所である。商業を單なる致富の手段と考へた重商主義の所説は姑くおき、ケネーに於ても既に商業の國際的過不及の調節により價格の均一化を論じた一節があり、尤も當時國內商業の障害の結果その見解は専ら外國貿易の機能に限られてゐたが、スミスに至つては國內商業のこの機能を極めて強調し『飢饉缺乏の唯一の緩和劑』として國內商業の拘束の撤廢を主張した。³⁾ 次に私はこの點に於ける商業の價格への影響を考察しよう。

- 1) 短期的に見るに於ては、商業の價格形成に於ける作用は、 $W \rightarrow Q \rightarrow W'$ の過程に於ける W, W' 間に於て、時間的場所的量的質的要求の間に矛盾が生ずる事になるが、この事は必然市場價格の正常價格よりの隔離を擴大する事となる。然らば商業の介入はこの間に處して如何なる作用を及ぼすかが本論の問題である。商業の市場價格に及ぼす作用も商品生産が普及し既に資本制生産が或程度の發展を見るや學者の注目を引いた所である。商業を單なる致富の手段と考へた重商主義の所説は姑くおき、ケネーに於ても既に商業の國際的過不及の調節により價格の均一化を論じた一節があり、尤も當時國內商業の障害の結果その見解は専ら外國貿易の機能に限られてゐたが、スミスに至つては國內商業のこの機能を極めて強調し『飢饉缺乏の唯一の緩和劑』として國內商業の拘束の撤廢を主張した。³⁾ 次に私はこの點に於ける商業の價格への影響を考察しよう。
- 2) 短期的に見るに於ては、商業の價格形成に於ける作用は、 $W \rightarrow Q \rightarrow W'$ の過程に於ける W, W' 間に於て、時間的場所的量的質的要求の間に矛盾が生ずる事になるが、この事は必然市場價格の正常價格よりの隔離を擴大する事となる。然らば商業の介入はこの間に處して如何なる作用を及ぼすかが本論の問題である。商業の市場價格に及ぼす作用も商品生産が普及し既に資本制生産が或程度の發展を見るや學者の注目を引いた所である。商業を單なる致富の手段と考へた重商主義の所説は姑くおき、ケネーに於ても既に商業の國際的過不及の調節により價格の均一化を論じた一節があり、尤も當時國內商業の障害の結果その見解は専ら外國貿易の機能に限られてゐたが、スミスに至つては國內商業のこの機能を極めて強調し『飢饉缺乏の唯一の緩和劑』として國內商業の拘束の撤廢を主張した。³⁾ 次に私はこの點に於ける商業の價格への影響を考察しよう。

一、時間的調節と價格

商人は私經濟的利益投機的利潤を目標に行動するが、これは一面では社會的商品流通をもたらし價格現象となつて表はれる。商品の需給調節價格の時間的調節は從來屢々高唱された所である。⁴⁾然しこの方面に於ける商業の作用にも一定の限界がある事も見逃してはならない。價格の變動が需要に對する供給の増加により各瞬間ごとに平均される様な商品の如き或は一定期間に頻繁なる價格の差異を生ずる如き事情にない商品の如きは商業の價格への作用は大きな意義は持ち得ない。⁵⁾特に需要或は供給が一時期に偏位する如き商品には商業のかゝる作用が最も強調される。農産物、例へば米小麥棉花の如きはその最も著しいものであつて斯の如きは農民の手持金の乏しい事と相待つて商業の介入は生産直後の價格の低落を防ぐ。一般に商業の介入は生産者にとつても資金の回收を速にし或は生産物を借入金の擔保として使用するを得しめ恒常的生產を可能にし供給の時間的均衡化を齎すと共に他面生産消費の増大を齎す。⁶⁾然し前の條件よりすればレキシス等も上げてゐる如く、不斷に生産される原料半製品例へば石炭鐵或は註文取引の行はる生産用具否今日では瞬間的に需要の調節される一般工業製品の如きも商業の價格への作用は力強いものではあり得ないと思ふ。生魚類その他腐敗性の商品も保管の困難上商業の價格への作用は制限される。⁹⁾商業は交換價值を目標として使用價值を問題とせない。この關係上私はその他大量取扱の可能や商品の代替性の如きもこの方面への資本主義的商業の介入のための重要な一條件なりと思ふ。¹⁰⁾

- 3) 拙稿、商業機能學說の發展(經濟論叢昭和十一年一月號)参照
4) 拙稿、資本制生産の發展と商業の關係(經濟論叢昭和十年十二月號)
谷口教授著、商業組織の特殊研究 p. 480 以下
5) R. Hilferding, Das Finanzkapital, S. 177-180.
6) W. Lexis, Allgemeine Volkswirtschaftslehre(田邊譯 p. 156 以下)
7) Clark, Principles of Marketing, 緒方譯 p. 435, 436.

二、場所的調節と價格

甲市場と乙市場とに於ける價格の相違を商業が克服する事も屢々論ぜられる。然しこれにも一定の條件が存在して市場の廣狹はまぬかれない所であつて穀物棉花珈琲金銀銅の如きその市場は廣く複雑で全世界に亘り均一價格が構成されてゐるが、一般に生活上の必要品は奢侈品よりも廣き市場を有し、價の割合に重量容積の大なるものは其市場狹く、保存容易にして其取扱に特別の條件を必要とせないもの¹¹⁾の例へば標準化されたもの代替性の大きなものゝ如きは市場廣く、野菜生魚の如きは市場は狹く各地夫々の需供に應じて異なる價格が構成されると云はれるが、生魚野菜の如きも轉換逆送 (Diversion in Transit) 例へば初め目的地を定めず貨物を送り轉換點 (Diversion Point) に於て需給狀態によりその各方面への地方的配達を行ふ事等が米國等で發達してより、商人の存在せざりし場合に比し、相對的に考ふれば、かゝる商品に對する價格上の商業の調節作用は著しく増して來たものと云へよう。¹²⁾ 運送費は市場の廣狹を決定する重要な要素と云はれるがこれも一地方が貸切貨物取扱の可能となる限りその低廉と迅速とにより分散卸商の中心となると云はれる如く、消費者小賣人は小量づゝ皆直接生産者に接するよりもより低廉なる分散卸商のもとに集り、¹³⁾ 價格の地方的相違は小くなる。商業のかゝる場所的調節作用の發達により(例へば小麦)¹⁴⁾ 進んでは價格の地方的差異は配給費に止まるに至る狀態も出現する。

三、量的質的調節と價格 量的調節は必然時間的場所的調節に伴ふ故暫くをき、商品の質的調節の問題に移る。商品の標準化はその一である。資本主義的價格調節には商品の大量取扱と代替

8) Lexis, 原論、前掲 161-164

9) Lexis, 原論、前掲 p. 151. Clark, 前掲 p. 435, 437.

10) R. Hilferding, a. a. O. S.

11) 高田教授著、經濟學新講第二卷 p. 31.

河田博士著、經濟原論、p. 100-102. Clark, 前掲 p. 608, 609.

12) Clark, 前掲 p. 408-411. p. 609.

性は重要な地位を占める。資本制生産以前に於ては生産者消費者相集つて賣買交換に當つたが生産消費が人格的場所的に隔絶し唯一の連絡手段たる見本取引廣告取引による需給の調節の速を期する爲には、商業による商品の標準化の發展は必然的なものであり、その結果場所的隔離が克服され賣手買手の了解が容易となり注文や價格の決定の困難は除かれ異なる時期異なる生産者の生産物も一の特質を標準としてこれを混合され、大量販賣が容易に齎されたと共に、運送保管の困難が除かれ、ために商品移動は容易となり需給の調節價格の均衡に著目する限りその發展は見逃し難い一事象である。¹³⁾ 第二に商業の品質的調節として注目すべきは需要者の品質の地域的階級的調節であつて或地域は或階級は良好な品質が要求され或は然らざるが如きはこれであつて又商人により同一商品を甲乙丙の段階を付し一定の階級に對し彼等の社會的購買力に應ずる様に備へると共に同じ賣上高を保持しつゝ或階級は正常價格以上に他の階級はそれ以下に販賣し需給の調節を圖る事も行はれるに至る。これは同一店舗内に於ても行はれ例へば或種の商品を誘引品としてその割引を他の商品に負擔せしめ流行品季節等の需供調節に應ずる事を得、かくて、價格の著しい變動投賣の如きは商業の介入により除かれるに至るのである。

以上商業の市場價格への作用を考察した。勿論これは商人の營利的見地で行ふのであるがその結果は社會的に見れば價格の變動を安定化し、その振幅を減じ、價格を生産價格に近付ける事を知つた。然しその安定化は單に流通中に表はれる變動のみである事も忘れてはならない。流通界

13) Clark, 前掲 p. 401-404.

14) 小麥の世界的價格はリゲアプールの價格を中心として成立するが或地方にこれより高低ある時は直ちに供給は出入して價格はこの基準的價格 Basic Price に一致せんとする。故に例へばシカゴ、リゲアプールの小麥の價格の差は小麥配給費だけの相違にすぎない様に保たると云ふ(Clark 前掲 p. 607, 608.)

15) 向井鹿松著、配給市場組織 p. 369-379.

に豫見すべからざる大變動、或は生産條件の變動より生ずる價格變動の如きは決して除き得るものではない。特にその作用の顯著なるは流通期間が長くまた生産が見渡しがたいほど多數の生産場所に分散されその産額が豫見し難く不定であり従つて價格の流通上の動搖が顯著で不規律な生産物の如きである。¹⁷⁾ 尙商業の介入により價格變動の回數が多くなり、時としてはその投機的動機が却つて安きに賣り高きを買ふ結果となり價格變動を大にする事もあるも見逃し難い。商業の介入は元來これなくば $W-G$ ($G-W$)¹⁸⁾ は一過程に過ぎざりしものを中間過程を設ける事により $W-G, G-W$ を分離する事になり、これが一面價格均衡に作用する事上述の如くであるが、他面より見れば一の假想的需要を作り需給の調査を阻害する事ともなる。賣買の商品は必ずしも購買を待ちて販賣するものではない。この點で商業資本は再生産過程個人的消費より少くも外部的には(内部的依存に關らず)一應獨立に機能し得る。然し終極的には個人的消費により制限づけられてゐる。こゝに矛盾が発生するのである。商人が假想的需要を創り再生産を制限外に押し進め産業資本家の収入を増し、一産業資本家は他の産業資本家を運動せしめ不變資本間の流通は盛となり一應消費は繁榮の絶頂に達するとしても、一方見えざる一面に於て商人の在庫品がそれ以上に過充となつて居れば、いつかはこの内部的矛盾は何等かの方法により統一されねばならぬ。この場合消費制限に伴ふ資本回流の遅延これに對する再販賣前の購買商品に對する手形満期、銀行の支拂督促等を考へ合す時容易に強制販賣の必然性恐慌發生の必然を理解する事が出来る。¹⁹⁾ 即ち商

- 16) Clark, 前掲 p. 541-557. 谷口教授著、配給組織論 p. 88, 89. .
 17) R. Hilferding, a. a. O. 187, 188.
 18) 拙稿、資本制生産の發展と商業の關係、
 19) Marx, Das Kapital, III B, I T. S. 257, 258.

業の介在による生産、消費の隔離は價格變動の激化を恐惶への一導因を作る事さへある事も否定出来ない。商業の價格調節の機能は一應は單に流通過程のみに止まる。

四、價格の積極的調節と消極的調節 以上私は需要供給を一定のものとして商業の價格調節作用に就いて考察したがこれを假に消極的調節作用と云ふならば商業が一定の限界に於て消費需要を創造し(想像的需要ではない)生産にも作用を及ぼす事もあるがこれを積極的調節作用と云ひ得る。²⁰⁾

商業の需要創造は二つの方面より見られる一は一方の需要を他方の需要に轉換せしめるのである一は需要自體を創造するものである。特に流行品奢侈品等需要の伸縮性の大きなものでは商業のこの作用は大きな意味を持つ。クラークの研究によれば、生産用品例へば原料等に於ては需要創造は困難なるが、消費用品竝に設備品に於ては供給者の價格構成への力は大きく、消費者の需要の創造修正は容易である事を指摘してゐるが、²¹⁾ 兎に角資本制生産が需要を豫め豫期して作るものではなく、特に生産の迂回化はこれを不可能化する以上、商業のかゝる積極的價格調節作用も見逃してはならない。

五、生産者價格・卸賣價格・小賣價格の關係 生産者價格が卸賣價格を、次いで小賣價格を支配するか或は小賣價格が卸賣價格次いで生産者價格を支配するかいづれかが支配的である様に一應考へらる。然し市場價格の構成は事實この考を否定する。寧ろ市場價格は卸賣價格により支配されるのではないかとさへ思はれる。蓋しこれは卸賣價格の性質より來るもので卸賣に於てはその

20) 谷口教授著、配給組織論 P. 74, 75.

21) Clark, 前掲 P. 592-598.

取引の目的が轉賣にあり商品は大量的にして取引相手は商人である。需給の僅な變動も直ちに之に反映し振幅は小なりと雖も時間的に頻繁に變動すべきであるが故に市況は最も速に卸賣商の手に入り價格に表はれる。生産者價格小賣價格はこれに依存する所多しと雖もその追從の程度は大ききの上に或は時間の上に或程度の差がある。²²⁾ 小賣價格は卸賣價格の如く頻繁には變化せない。仕入間の期間は長く卸賣價格の變動は直ちに小賣には傳はらない。消費者は價格の變動を好まず小賣店も取扱商品量は少く種類は多い故日々の卸賣價格の變動により價格を變動する必要を見ない。小賣の利益は大きく勞賃も價格構成中に含まれる故僅の變動により大なる影響はないのがこの理論的根據であるが、²³⁾ 勿論長期的に見れば小賣價格も卸賣價格に従ふ事は否定出来ない。然し生産者價格は比較的卸賣價格への追從性は大きい。私はこの理由は取引量の²⁴⁾ 大なる事と取引の目的より來ると思ふ。小賣に於ては使用價值が著目せられて居る限り消費者餘剰が大なる意義をもち一面消費による快樂と慰安は貨幣價值で表現するは困難であつて、これ小賣商業に於ける人的差別價格の存在或はその時間的變動の小なる理由であるが、交換價值に著目し大量的に生産される生産者價格に於ては例へ卸賣價格の如く頻繁ではないにせよ、これに追隨して變動する性質は大きい。²⁵⁾

勿論これ等三價格と雖も永久的に見れば正常價格が支配する所であり或一定の期間に就て見れば小賣價格が支配すべきであるが、この市場價格構成に於ける卸賣價格の支配的地位は卸賣商が

22) Lexis, 原論、前掲 p. 167.

23) Clark, 前掲 p. 601-604.

24) 高田教授著、經濟學新講第二卷 p. 33.

25) Clark, 前掲 p. 604.

自己の支拂價格及び受取價格を自ら決定し得ると云ふ事を示すものではなくして、寧ろ小賣市場又は地方市場に對して或は又製造品に對する工場價格に對して廣汎なる影響を與ふる市場の變動は通常生産者又は小賣商に明瞭となる前に先づ卸賣商に感知せらるゝ事云ひかふれば卸賣市場に於ける市況報告の優秀性によるものと思ふ。この點クラーク等も力說せる所である。²⁶⁾

獨占價格の構成と商業

以上は生産者・商人・需要者相互に自由競争の行はるゝ場合であるが、本論に於てはこれ等相互間の競争の十分行はれざる場合に就いて考察する。獨占はその主要なるものであるが、今獨占の概念を供給又は需要の數量竝に價格の單一なる意思による統制と解するとして、この單一なる意思が生産者なるか商人なるか消費者なるにより(1)商人の獨占(2)生産者の獨占(3)消費者の獨占到分ちその各場合に於ける商業の價格への作用を考察してみたい。

一、商人の獨占 商人の獨占には商人の生産者に對する獨占と商人竝に消費者に對する獨占の二つの場合を考へ得るが、この各々の場合は相伴ふ事が多い。商人の價格に對する獨占的支配は我等は之を資本制生産發生前の商業の中にその典型的姿を見出す事が出來ると思ふ。當時資本は流過程に於てのみ成立し、生産過程に及ばず、生産は使用價值を目的として行はれた關係上、價格の人的場所的均一化もなく、價格は全く商人の支配する所であつて、²⁾中世以降も商人が産業

26) Clark, 前掲 p. 605, 606. Lexis, 原論、前掲 167, 168.
1) 高田教授、經濟學新講第二卷 p. 146. 獨占の本質が數量に對する指令か價格に對する指令にあるかは問題のある所である。高田博士の如きは價格の指令に對する自由にあると力説する(高田教授、價格と獨占 p. 2)私は數量、價格兩方に對する指令を以て完全な獨占の姿と解したい。價格協定の如き供給數量の放任の存在する場合完全な獨占の機能を發揮してゐるとは思へない。

を支配してゐた關係上生産者より商人への販賣價格も販賣量さへも商人の指令する所であつた。然しこの間に商人間に價格利潤に關し組合的統制が行はるゝや商人の利潤競争は自らを産業にたずさはらしめるに至つて、商業資本の産業資本への轉換が行はれることゝなつたが、然らば資本制生産のもとに於ては如何といふにその初期に於ては生産は尙分散的であり、資本力の優越性も信用關係も商人の側にあり、特に信用が支拂信用である間は商人は銀行より相當の便宜を得た。故に商人はこの優越性を利用して生産者の價格を壓縮し供給や支拂上の條件を附し、これにより好景氣の利益の上前をはね沈滞期の損失を一部分を生産者に轉嫁し得た。⁴⁾然るに資本主義の獨占化産業に於て企業結合の發展と共に商人のかゝる機能は縮小除去されてその價格も産業の指令に從ふを得ざるに至つた。然しこの場合も商業自體のカルテル化も或程度行はれ得然る限り中小工業を支配しその商人への販賣價值を壓縮する。⁵⁾のみならず、生産者をして一般市場に賣らざる義務を負はしめ量的統制をも圖る事が出来る。かゝる商人の購買者としての優勢による仕入價格の壓縮は産業利潤を犠牲にして商業利潤を高めるものと見得るが、然らば商人による生産者の價格は如何なる點まで壓縮し得るか。理論的には株式會社なる限り生産費十利子までと云ひ得るが、私は更に進んでは利子自體も消滅し得て生産費迄嚴密には今限界概念を用ふれば、商人の必要なる需要を充し得るだけの供給者中の限界生産者の生産費を償ふだけまでと云ふ事が出来ると思ふ。然し生産費を必要とせない供給者に對してはこの壓縮は更に大きい。供給者としての商人の價格

- 2) 拙稿、資本制生産の發展と商業の關係(經濟論叢昭和十年十二月號)ボグダノフ、經濟科學概論(改造社)商人は生産者の生活資料だけを獲す程度までの價格を付して價值以下に購入した進んでは價格並に量、質、仕上時期も指令した。(前記 p. 190-193.)
- 3) エンゲルス、資本論第三卷補遺(マルクス全集第十四卷 p. 325 以下)
- 4) Hilferding, Das Finanzkapital, S. 261.

への作用も又一定の限界に立つ。普通一定價格より仕入價格を差引たるものにその價格に於ける賣上數を乗じた積が最大なる如き價格が付されると云はれるが、然しこの場合もこの價格の決定には種々なる制限を受ける。生産者の直接販賣の可能はその一の制限であり、消費者需要の伸縮性は第二の制限であり、代用品の進出は第三の制限である。⁵⁾例へば米の如き商人の獨占により相當の釣上を行ひ得るが砂糖の如きネクタイの如きその需要は直ちに代用品に向ふ故その價格釣上には限界がある。競争品にも或程度の獨占が行はるゝ事がある。例へば價格が些少の相違はあつても習慣上便誼上消費者が或商品又は或商店のみより購入する場合があり、これは小賣商等に往々見る所である。米國に發達した反復的販賣 (Repeat Sales) 例へば一商品の廣告に多大の費用を附し消費者に一店商標の商品購入の習慣を養ふ時は以後の商品にこの費用を割當相對的には小經費で永續的賣上を期待し得ると云へる如きはこの慣習を利用したものであるが、御用聞掛賣の殘存甚だしきわが國小賣商業に於ては別の意味から競争價格の行はれる事が制限されて居ると云へよう。⁶⁾

二、生産者の獨占 生産者の獨占は商業の價格構成作用の上に如何なる影響を持つか。直接問題となるは生産者の企業結合の場合であるが、このとき如何なる場合獨占が存在すると云へるか私は企業が價格決定に標準をあたへる地位にある場合然りと云ひ得ると思ふ。⁷⁾然らば如何なる場合に價格變動に標準を與へ得るか。一應はその生産の中景氣のあらゆる段階を通じて市場供給に缺くべからざる部分の支配を以て足れりと云ひ得よう。¹⁰⁾然しこれには一定の前提即ち結合外の者

5) R. Liefmann, Kartelle und Trust p. 139 (竹内譯 p. 139)

6) Fred E. Clark, Principles of Marketing, (緒方譯 p. 571.)

7) Clark, 前掲, p. 576.

8) 戸田博士、商業經濟論 p. 88-94.

9) 高田教授、前掲 p. 157.

10) R. Hilferding, a. O. S. 249.

が(1)好景氣のかゝる追加需要の必要とするだけしか生産し得ないこと(2)生産費のより高いことこの二つを前提とせねばならぬ。然る限り不況に於ける生産制限は結合外のものに降り懸る事となるが、この時結合者の地位は經濟的獨占が自然的獨占により確める時最も強いと思ふ。¹¹⁾勿論價格協定により一應價格統制は行ひ得るが前の場合には商人の價格への作用は極めて縮小されてゐるとはいへ、この場合には需給關係が放任されてゐる故買占賣惜により價格へ作用する餘地は大きいと云へよう。かく商人の介在による需給關係が紊る事はカルテルの價格支配を困難ならしめられる關係上必然商人の作用が除かれると共にシンジケートの如き販賣形態が發展する事となる。然る限り商人の價格への作用は縮小され進んでは商人の仕入價格販賣價格はカルテルにより定められ手數料或は賃勞働に相等する差額を受取る事となり或意味では生産者が直接消費者に接すると同じ形式となる。¹²⁾然らばかゝる商業の除去は價格を安くするか。立場により考へ方は異なるが流通過程の生産性を否定する限り總利潤が企業利得利子地代商業利潤の間に如何様に分配され様と産業資本家の利潤を増大するのみで價格の上には變化ないと一應は云へよう。然し私思ふにこれは總價值總價格に然るだけで、個々の商品に就て見れば、今流通經費の問題を姑くおくも、商業利潤の除去は利潤平均化を認める限り價格に影響せねばならぬと思ふ。¹³⁾配給過程の價格への作用はこの意味でも認められる。(前號拙稿參照)

企業結合の發展はかくして投機を排除し安定價格をもたらし事によりこの方面に於ける商人の

11) R. Liefmann, 前掲 p. 108. R. Hilferding, a. a. O. S. 247, 248.

12) R. Hilferding, a. a. O. S. 274 以下 R. Liefmann, 前掲 p. 135拙稿、前掲參照

13) 今 (A) 生産資本1000、商業資本200(1000+200)と (B) 1000+400との二つの企業を考へ平均利潤率を20%とする時今商業空費をカルテルの結果半減し得たとせば (A) に於ては1100に對し340 (B) に於ては1200に對し480の利潤を得るわけで利潤率不平等の結果平均化過程に導き價格の變動がもたらされる

機能を縮小するわけであるが、然らばカルテルの價格決定は如何にして行はるゝか。商人獨占の消費者への關係と異らず一方生産費と生産規模他方價格と販路との關係に於て決定さると云へよう。この際普通單價を P とし生産費を p 賣却高を M とし、價格を P' に引上げた時賣却高が m だけ減少したとすると、 $(P'-p)(M-m) > (P-p)M$ 或は $\frac{P'-p}{P-p} > \frac{M}{M-m}$ の場合に於て利得がより大である故に究局に於ては獨占者は左項が右項に等しくなる迄引上げ得る可能があり、商人の介入する時には商人を通じてこの價格を要求すると思はれる。消費者への價格は前述の如く需要の伸縮性代用品等の關係で限界づけられるが、これを生産者との關係に於て見れば、未カルテル化産業の犠牲に於てカルテル化價格の釣上或は仕入價格の減少が齎される事となる。然る限りカルテル化産業相互間の平均利潤は高上し未カルテル化産業のそれは低下する事となる。これは必然價格に作用するわけであるが、この未カルテル化産業相互の間にも資本の有機的構成を異にする關係上カルテルによつて騰貴せる原料をヨリ多量に使用する産業はその生産物の價格を引上げざるをえないしヨリ少量に使用する産業の價格を引下げる事となる。未カルテル化産業はカルテル化産業よりその利潤を犠牲にして購買するわけであるが、この未カルテル化産業に販賣する商品の價格昂騰は、必然あらゆる消費者——資本主義的消費者に對してのみならず——にもたらされるわけで、然る限りかゝる消費者へも高い價格で賣渡されるわけであるが、¹⁵⁾ (1) 未カルテル化産業の存立維持を與へる必要による限界のほか (2) 消費に對しては大きな制限あり、價格上昂に限界ある事は私の先に指摘した

(Hilferding, a. a. O. S. 267.)

- 14) Wilhelm Lexis, Allgemeine Volkswirtschaftslehre (田邊譯 p. 141)
 實際上は費用遞増又は遞減の法則の支配、消費者の需要の伸縮性等が作用しこの價格の決定は極めて困難である(クラーク前掲 p. 574)
- 15) R. Hilferding, a. a. O. S. 292.

通りである。カルテル技術の改善は價格に如何なる影響を及ぼすか。一應こは生産者の特別利潤を増すのみ價格に影響なしと云ひ得ようが、生産の増加による價格低下も考へ得る。然しこれもカルテル内部で技術的に遅れた工場を取除き二、三の經營で必要需要だけを充す事も出来る。¹⁶⁾一生産部門のカルテル化は他の生産部門に波及しその間合併隸屬が行はれるがこれは如何なる限度迄及び得るかも問題である。若しその極限迄を考へるなれば、貨幣は何等の役にも立たず價格は單なる名目上のものとなり生産物の分配は意識的に規律され¹⁷⁾今日の商業の機能の如きは單なる運送保管等を營む技術的なものに化する事とならう。

今自由競争を前提としても供給の需要に及ばざる時は一種の獨占的地位が出現するが(多占的地位)この場合は財の盡くが賣盡さんとする點に特徴があり商人又は生産者の附する價格は供給數量のことごとく賣盡す點即ち専ら供給數量と需要曲線の關係により決定すると云へよう。

三、消費者の獨占 消費者の獨占と商人の關係を見る。この場合商人の間に競争の存在する場合には消費者の必要とするだけの數量を供給する者の限界生産費、或は平均生産費により價格は決定すると云ふ外はない。消費組合購買組合が需要者の獨占と見做すべきか或は一の商業形態と見做すべきかは問題であるが、一の需要者獨占と見做す限り生産者或は商人の平均利潤が彼等に讓渡されると見ねばならぬ。その限界は供給者の生産費迄理論的には及び得るわけであるが、商品の種類によつてもその獨占力は異なる。然し今日では消費組合購買組合は他の商業と競争的地位に

16) R. Liefmann, 前掲 p. 106, 107.

17) R. Hilferding, a. a. O. S. 295.

18) 高田博士、新講 p. 162.

あり、平均利潤の考へ方を以てする限り組合に歸屬する資本に對する利潤だけ價格の低下がもたらされるものと見ねばならぬ。勿論この場合流通經費の排除による特別利潤が得られるわけであるが、資本の自由流入が制限されてゐる限りこの利潤の平均化が阻害されてゐる事により、これを確保し得る點に於てその長所がある。然し流通空費の排除も社會的一般的に行ふれば特別利潤出現の根據にはなり得ない。或は又生産者の利潤増加に終る様なこともある。

四、商人生産者消費者相互の獨占 生産者と商人或は商人と需要者相互に獨占的地位にある場合價格は何處に落着くか。第一の場合は生産者の生産費と商人の見積價格の間に落付くわけであるが、かくの如きは稀であり或意味では生産價格に落着くとも考へ得られぬわけではないが、生産者に直接販賣の可能に對する障害のない限り商人の地位は弱いものと云はねばならぬ。商人と消費者の雙方的獨占の場合はどこに落着くか。商人の購買價格が上限をなすが、その間何處に落着くかは財の種類特に消費者の需要の伸縮性の如何によるものと思ふ。商人の米の買占の如き場合には法外な價格が付せられる事は我等の屢々見る所である。

結 論

以上私は正常價格、市場價格、獨占價格に就いて、その構成に於て、商業が如何なる作用を及ぼすかを一應勞働費用説の立場に立ちつゝそれへの疑問を指摘しつゝ眺めて來た。勿論或場合は

効用説の限界概念を借りて説明した點もあるが、元來私を以てせば費用説と効用説とは必ずしも矛盾した見解に立つものに非ずとも考へ得られるのではないかと思ふのであつて、マーシャル、デーチエル、或はわが小泉信三氏等否ジェボンスすら或意味では認めてゐる如く、勞働費用は生産費を定め生産費は供給を供給は稀小性を左右し限界効用に作用すと云ふ如き見解も、或意味では見るべきもの多いとも考へられるのである。未だ曾て徹底的に——マルクス、ベームさへ既述の如し——費用説効用説を一方的に主張したものはないと私は信ず。

尙本論はたゞ私の一試論であつて必ずや誤も多い事と信するが今後の研究に基いて匡して行きたいと思ふ。未だ最近の動靜熊學説或は數理經濟論の價格論にも直接には目を通してゐない事もここに附記しておかねばならぬ。(完)

早稻田大學の機關誌「政治經濟學雜誌」四月號は小生のケネー解釋(論叢一月號並に前號參照)に對する久保田明光教授の批判を載せてゐる。然し私は教授の有益なる御教示にも關らず今日のところ前號にも述べた如く必ずしも自説を抛棄するの必要を認めない。この點尙學界の諸賢の御叱正を待つて一考したいと思ふ。

前號の正誤

P. 108 總價格=總價值=費用(農)+純生産物_{餘利}費用(商工)(社會的)

P. 112 商人の仕入價格=平均利潤